

まちの話題



妙見さんを きれいにしました

役場浜町事務所近くにある町指定天然記念物「妙見の大ケヤキ」。その周辺の清掃作業が12月22日に行われました。浜A自治振興会と「妙見の大ケヤキ及び湧水保存会」が主催し、20年以上も続く年末恒例の行事です。

今回は、大ケヤキの近くにパンジー約500本とクルメツツジ20本を植えた後、湧水池の落ち葉などを清掃しました。

妙見の大ケヤキは2003年1月に根元部分が腐朽し倒れましたが、その後公園化され、毎朝のラジオ体操や、夏には子どもたちが集って魚つかみどりを行うなど、憩いの場所として親しまれています。

森の音楽会&てづくり市

12月15日、町内に移住したアーティストを中心に企画された「森の音楽会&てづくり市」が、服掛松キャンプ場で開催されました。囲炉裏を囲むのんびりした空間の中、モングル民謡、オルティンドー、やピアノ・ギターの弾き語りライブが行われました。実行委員の1人、ピアノの須藤かよさんも移住者で、「一昨年山都町に来たとき、風景に魅せられ移住を決めた。この町は、いろんな人が交流し関わり合う、旅の途中のオアシスのイメージ。音楽で交流する空間をつくりたいと企画しました。」と語りました。



緑の杉玉が 新酒をお知らせ

12月13日、通潤酒造株の正面玄関に、あたらしいお酒が出来上がったことを示す「杉玉」が掲げられました。

昨年掲げられて茶色になった杉玉をおろした後、新しい真緑の杉玉が、従業員の方々の手により、ゆっくりと掲げられました。この杉玉は、勢井の渡邊明生さんが丹精してつくったもので、この青々とした杉玉が掲げられると、商店街は師走の装いとなり、新年を迎える準備に入ります。



下名連石ふれあい祭り

今年で20回目を迎えた「下名連石新春ふれあい祭り」(下名連石自治振興会主催)が1月13日に開催され、毎年恒例となった新春の催しを楽しみに地区内外からたくさんの方が集まりました。山風華や潤徳小学校児童の出し物、青壮年部の獅子舞のほか、年男・年女が扮した七福神の豆まきが行われ、七福神の「福豆」を我先に手にしようと、会場と盛りに上がりました。



七福神がみんなに福をおすそ分け

通潤橋前で大どんどや

1月12日、14日、正月の伝統行事であるどんどやが町内各地で行われました。通潤橋前で1月12日に行われたのは、浜A自治振興会(松岡昭二会長)主催のどんどや。地域の方々とともに、通潤橋を訪れる観光客も訪れるどんどやです。

2日かけて準備されたどんどやは、午後1時に火がつけられると、勢いよく燃え上がり、竹のはじける大きな音が周囲に響きます。会場では浜A地区婦人部によるぜんざいなどが振る舞われました。



田小野収納祭

12月23日、田小野収穫祭が田小野公民館で開催されました。地域の農園で栽培したもち米を使ったもちつきは、田小野地区の小・中・高校生と保育園児、そして地域の方々が交代でつきます。ついた餅は田小野全世帯に配布されました。



写真提供：岩崎啓司さん

白石お天道さん 神楽まつり

11月24日、馬見原西部交流センターで、白石神楽保存会が舞いを披露する、「白石お天道さん神楽祭り」が開催され、会場を埋めた地域の方々をはじめ、九州各県からの神楽ファンを前に、13座の演目を披露しました。

今年初めて、子どもたちが舞う場面がありました。舞ったのは、地元の小3年生、佐藤成慈さんと久枝咲二朗くんの二人。「場神楽」という舞いを、精一杯つとめ、見事演じ終わると会場から大きな拍手ももらっていました。



写真提供：栗屋広季さん